

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平7-28158

(43) 公開日 平成7年(1995)5月23日

(51) Int.Cl.⁵

B 6 5 H 75/28
75/14

識別記号

庁内整理番号

A 9037-3F
A 9037-3F

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号

実願平5-58025

(22) 出願日

平成5年(1993)10月27日

(71) 出願人 000116024

ローム株式会社

京都府京都市右京区西院溝崎町21番地

(72) 考案者 川島 俊一

京都市右京区西院溝崎町21番地 ローム株式会社内

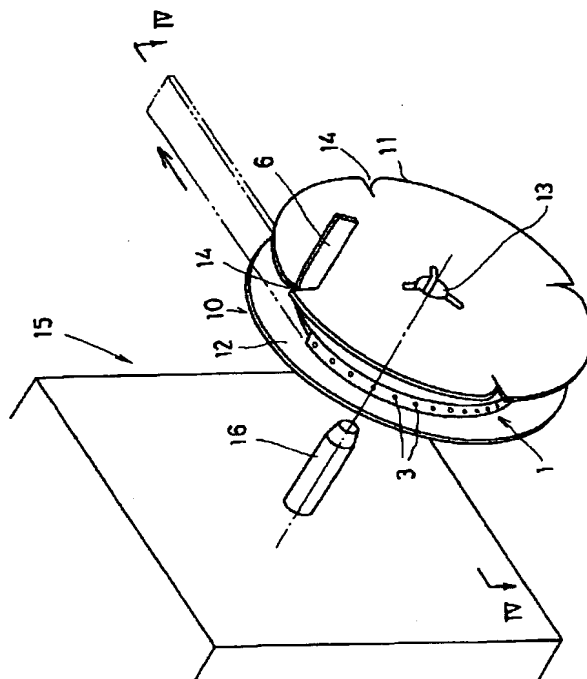
(74) 代理人 弁理士 石井 暁夫 (外2名)

(54) 【考案の名称】 電子部品用フープ状包装体の巻取りリール

(57) 【要約】

【目的】 左右一対のフランジ板11、12をその中心において連結する巻芯管13に外周に、電子部品用フープ状包装体1を、当該フープ状包装体のカバーテープ6が外側になるように巻き付けるようにした巻取りリール10において、前記フープ状包装体のカバーテープ6に係止したり、係止を解除したりすることが容易にできるようにする。

【構成】 両フランジ板のうち前記フープ状包装体における長手一側縁の送り孔3とは反対側に位置する一方のフランジ板11に、前記フープ状包装体におけるカバーテープの末端を差し込むための切り込み部14を、当該一方のフランジ部の外周面に沿った複数箇所に設ける。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 左右一対のフランジ板をその中心において連結する巻芯管の外周で、且つ、前記両フランジ板の間に、電子部品用フープ状包装体を、当該フープ状包装体におけるカバーテープが外側になるように巻き付けるようにした巻取りリールにおいて、前記両フランジ板のうち前記フープ状包装体における長手一側縁の送り孔とは反対側に位置する一方のフランジ板に、前記フープ状包装体におけるカバーテープの末端を差し込むための切り込み部を、当該一方のフランジ部の外周面に沿った複数箇所に設けたことを特徴とする電子部品用フープ状包装体の巻取りリール。

【図面の簡単な説明】

【図1】 フープ状包装体の一部切欠斜視図である。

【図2】 図1のII-II視断面図である。

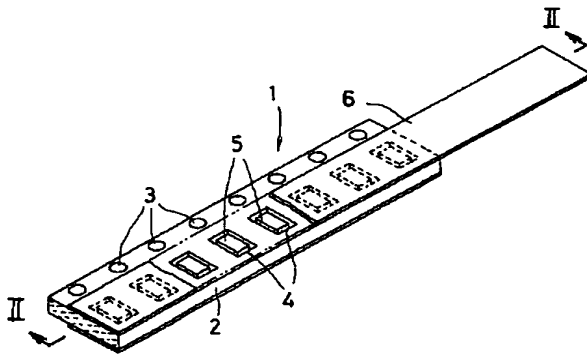
【図3】 本考案の実施例による巻取りリールの斜視図である。

【図4】 図3のIV-IV視平面図である。

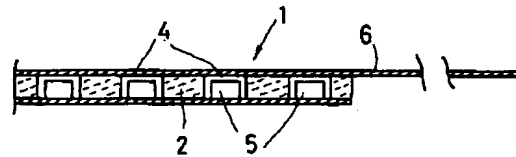
【符号の説明】

- | | |
|--------|---------|
| 1 | フープ状包装体 |
| 2 | キャリアテープ |
| 3 | 送り孔 |
| 4 | 部品収納部 |
| 5 | 電子部品 |
| 6 | カバーテープ |
| 10 | 巻取りリール |
| 11, 12 | フランジ板 |
| 13 | 巻芯管 |
| 14 | 切り込み部 |

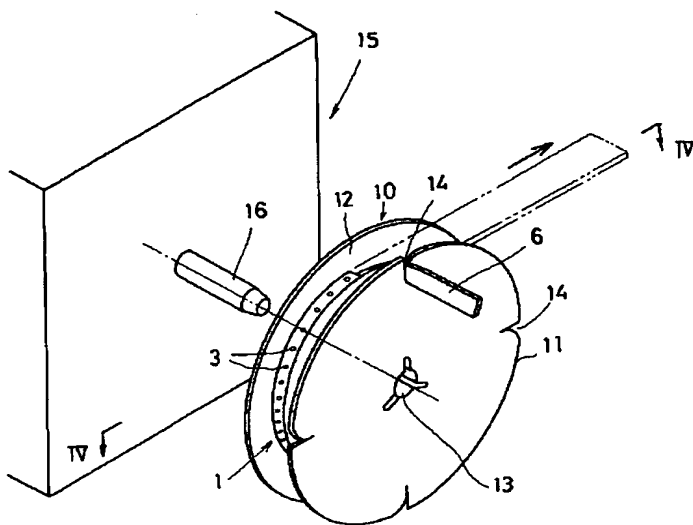
【図1】



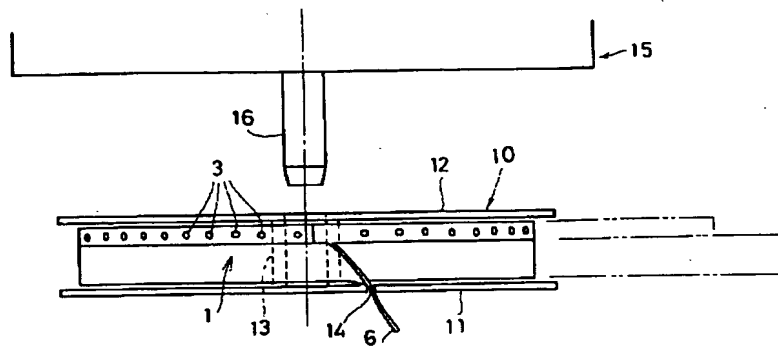
【図2】



【図3】



【図4】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、図1及び図2に示すように、長手方向の一側縁に送り孔3を長手方向に沿って適宜ピッチの間隔で備えたキャリアテープ2に、部品収納部4を、当該キャリアテープ2の長手方向に沿って適宜ピッチの間隔で形成し、この各部品収納部4内の各々にチップ抵抗器又はダイオード等の電子部品5を一つずつ装填し、前記キャリアテープ2の上面に、カバーテープ6を、当該カバーテープ6によって前記各部品収納部3を塞ぐように貼着して成るフープ状包装体1において、このフープ状包装体1に対する巻取りリールに関するものである。

【0002】

【従来技術と考案が解決しようとする課題】

従来、巻取りリールに対して、カバーテープ6が外側になるようにして巻付けたフープ状包装体1は、当該フープ状包装体におけるカバーテープ6の終端に対して粘着テープを貼り付けることによって、巻付け状態を保持する一方、前記粘着テープを剥離することによって、前記フープ状包装体1を、巻取りリールから繰り出すようにしている。

【0003】

しかし、前記フープ状包装体1におけるカバーテープ6の終端に対する粘着テープの貼り付け、及び、フープ状包装体1からの粘着テープの剥離は、巻取りリールにおける左右一対の両フランジ板の間の狭い箇所において行うようにしなければならないので、その貼り付け及び剥離に多大の手数を必要とするという問題があった。

【0004】

しかも、前記粘着テープを剥離するときにおいて、フープ状包装体1におけるカバーテープ6が粘着テープと一緒に余分に剥離することによって、電子部品5が飛び出して、消失することが多発すると言う問題もあった。

本考案は、これらの問題を解消すると共に、巻き取ったフープ状包装体における送り孔の方向を容易に識別できるようにした巻取りリールを提供することを技

術的課題とするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】

この技術的課題を達成するため本考案は、左右一对のフランジ板をその中心において連結する巻芯管の外周で、且つ、前記両フランジ板の間に、電子部品用フープ状包装体を、当該フープ状包装体におけるカバーテープが外側になるように巻き付けるようにした巻取りリールにおいて、前記両フランジ板のうち前記フープ状包装体における長手一側縁の送り孔とは反対側に位置する一方のフランジ板に、前記フープ状包装体におけるカバーテープの終端を差し込むための切り込み部を、当該一方のフランジ部の外周面に沿った複数箇所に設けると言う構成にした。

【0006】

【考案の作用・効果】

この構成において、巻取りリールに対してフープ状包装体を巻き付けたのち、このフープ状包装体におけるカバーテープの終端を、一方のフランジ板における各切り込み部のうち一つの切り込み部に差し込むことにより、当該カバーテープの終端に係止することができるから、フープ状包装体を巻取りリールに対して巻付けた状態に保持できる。

【0007】

また、前記カバーテープの終端を、前記切り込み部から引き抜くことにより、当該カバーテープの終端に対する係止を解除できることにより、フープ状包装体を巻取りリールから繰り出すことができる。

従って、本考案によると、巻取りリールに対して巻き付けたフープ状包装体を、巻付け状態に保持すること、及びその巻付け状態から繰り出すことが至極に容易にできると共に、その際に、カバーテープの余分の剥離によって電子部品の消失が発生することを確実に防止できるのである。

【0008】

しかも、巻取りリールにおける両フランジ板のうち、前記フープ状包装体における長手一側縁の送り孔とは反対側に位置する一方のフランジ板に、前記した切

り込み部を設けたことにより、この切り込み部に、カバーテープの終端を差し込むことで、巻取りリールに巻き付けたフープ状包装体における送り孔の方向を示すことができるという効果をも有する。

【0009】

【実施例】

以下、本考案の実施例を、図3及び図4の図面について説明する。

この図において、符号10は、巻取りリールを示し、この巻取りリール10は、左右一対のフランジ板11、12と、この両フランジ板11、12の相互間をその中心において一体的に連結する巻芯管13とによって構成され、その巻芯管13の外周で、且つ、前記両フランジ板11、12の間に、前記図1及び図2に示すように構成した電子部品用フープ状包装体1を、当該フープ状包装体1におけるカバーテープ6が外側になるように巻き付ける。

【0010】

そして、前記両フランジ板11、12のうち前記フープ状包装体1における長手一側縁の送り孔3とは反対側に位置する一方のフランジ板11には、その外周に、前記フープ状包装体1におけるカバーテープ6の終端を差し込むための切り込み部14を、円周方向に沿った複数箇所に設ける。

この構成において、巻取りリール10に対してフープ状包装体1を巻き付けたのち、このフープ状包装体1におけるカバーテープ6の終端を、一方のフランジ板11における各切り込み部14のうち一つの切り込み部14に差し込むことにより、当該カバーテープ6の終端を係止することができるから、フープ状包装体1を巻取りリール10に対して巻付けた状態に保持できると共に、前記一つの切り込み部14に差し込んだカバーテープ6の終端によって、巻取りリール10に巻き付けたフープ状包装体1における送り孔3の方向を示すことができるのである。

【0011】

また、前記カバーテープ6の終端を、前記切り込み部14から引き抜くことにより、当該カバーテープ6の終端に対する係止を解除できることにより、フープ状包装体1を巻取りリール10から繰り出すことができる。

ところで、この種のフープ状包装体1における各部品収納部4内の電子部品5を、プリント基板等に対して自動的に装填すると言う自動マウント装置においては、フープ状包装体1の繰り出し機構15から突出する取付け軸16に対して、予めフープ状包装体1を巻き付けた巻取りリール10を、そのフープ状包装体1における送り孔3が繰り出し機構15側に位置するように取付けるのである。

【0012】

この場合においても、前記したように、巻取りリール10における両フランジ板11、12のうち前記フープ状包装体1における長手一侧縁の送り孔3とは反対側に位置する一方のフランジ板11に切り込み部14を設けて、この切り込み部14にフープ状包装体1におけるカバーテープ6の終端を差し込んでおくことにより、前記繰り出し機構15における取付け軸16に対して巻取りリール10を取付ける場合における方向性を示すことができると共に、前記カバーテープ6の切り込み部14からの引き抜きを、巻取りリール10を前記繰り出し機構15に対して取付けた状態のもとで、容易に行うことができるのである。